

黒耀石研究センター活動報告2021

2021年度 黒耀石研究センター活動報告

I 研究活動

(1) エネルギー分散型蛍光X線分析装置による 黒耀石原産地判別

今年度は黒耀石研究センターに保管されている北海道および東北地方の黒耀石原石を測定して判別図に反映させた。その結果、北海道～中部地方までの黒耀石原産地推定が可能となった。

また長和町ヘイゴロゴロ遺跡（旧石器時代後半）・岡谷市丸山遺跡（縄文時代草創期）・春日部市神明貝塚（縄文時代後晩期）・市原市祇園原遺跡（縄文時代後晩期）・多古町大ヨロ遺跡（旧石器時代前半）・豊橋市西側遺跡（縄文時代～弥生時代）・斜里町日ピラガ遺跡（縄文時代中期）から出土した黒耀石の原産地推定を実施した（JEOL社製JSX-3100ⅡおよびSIIナノテクノロジー社製SEA2110）。

（池谷信之）

(2) 出現期土器群の調査

縄文時代の成立期に土器がどのような機能を有していたのかを明らかにするために、栗島義明は土器型式の分析・検討と付着炭化物のサンプリング等を実施した。対象とした資料は9月に埼玉県夫婦岩岩陰遺跡、妙音寺洞穴遺跡、12月に神奈川県相模野No.149遺跡、栃木県大谷寺洞穴遺跡の出土土器である。

なお、このような実際の出土遺物の検討に加え、土器製作に於ける混和材や製作技法の違いがどのように反映されるのか、水子貝塚土器作りの会の協力を得て8月、9月に計4回の製作実験を実施した。（栗島義明）

(3) 植物考古学部門

今年度は、科学研究費学術変革領域研究（A）の計画研究班代表および分担者、同研究総括班分担者、基盤研究（A）の分担者2件、基盤研究（B）の代表者2件、

同分担者3件、基盤研究（C）の分担者1件が採択されており、それぞれの研究に基づいて調査研究を実施した。

上記の研究費を用いて、（株）エーティーエーのメタルプラズマコータ（AT-ET）と（株）キーエンスの深度マルチアングルレンズVHX-D510、双眼実体顕微鏡の撮影装置（（株）WraymerのUSBデジタルカメラNOA2000）、LED光源（（株）ハヤシレピックLA-HDF150AA）を導入した。新たに金蒸着を行って走査型電子顕微鏡観察およびデジタルマイクロスコーブ観察ができるようになり、土器圧痕のレプリカ、炭化材、炭化種実、繊維など多様な植物遺体に対する観察体制が整った。（能城修一）

II 研究交流・研究会

(1) 資源環境と人類2021シンポジウム、信州黒耀石フォーラム第4回例会

『黒耀石研究の新動向—原産地推定をめぐって—』

■日時：2021年11月28日（日曜日）

■共催：明治大学黒耀石研究センター、信州黒耀石フォーラム

■時間：12：40開演、17：10終了

■場所：Zoomを利用したオンラインミーティング
概要

エネルギー分散型蛍光X線装置を用いた新たな判別指標と「全点分析」が提唱されてから、30年近くが経過した。この間、大量の黒耀石製石器の原産地が明らかにされてきたが、原産地の判別が機器固有のX線強度に依存しているため、互換性がなく、相互検証ができないという問題点を含んでいる。しかし海外では幾つかの研究機関を拠点として、定量値にもとづく原産地推定が一般的になりつつあり、国内においてもその実用化に向けた独自の試みが始まっている。

また長野県和田地域のように、長期にわたる噴火活動が狭い範囲で継続した産地では、蛍光X線分析による判別群（産地名）に複数の産出地が含まれてしまうという状況があり、「産地名」との齟齬が生じている。この複雑な状況を、晶子形態分析をはじめとする顕微鏡観察によって解きほぐそうという試みも始まっている。

今回のシンポジウムでは、こうした推定法の新たな動向を紹介し、その課題と今後について検討した。

（池谷信之）

【プログラム】 司会 池谷信之・大竹憲昭

12：40～12：45 開会挨拶

12：45～13：15 池谷 信之「黒耀石原産地推定法をめぐる研究動向—1994年以降を中心に—」（主旨説明を兼ねて）

13：15～13：45 中村 由克「黒耀石の顕微鏡観察、晶子形態にもとづく原産地推定の可能性」

13：45～14：15 島田 和高「携帯型蛍光X線分析装置（p-XRF）を用いた黒耀石原産地出土石器の成分分析—検量線法による原産地推定の実践と課題—」

14：15～14：45 金井 拓人「装置非依存式の非破壊原産地推定に向けて」

14：45～15：15 隅田 祥光「黒耀石の原石試料を用いた標準試料化についての取り組み」

15：15～15：45 保坂 康夫「原産地推定結果にもとづいた剥片・石核属性の全点分析とその成果」

15：45～16：00 休憩

16：00～16：55 討論

16：55～17：10 閉会挨拶

（2）長野県黒耀石フォーラム

昨年度より事務局を黒耀石研究センターに置き、長野県内とその隣接県、黒耀石研究センターの研究者をメンバーとする研究例会を年4回開催している。今年度の発表内容は以下のとおり。

■第2回（通算）4月24日（土）

「蛍光X線分析による黒耀石原産地推定の概要と黒耀石研究センターの分析状況」 池谷信之（黒耀石研究センター）

「信州黒耀石原産地の細石刃狩猟民行動—男女倉遺跡群の黒耀石原産地推定をめぐる—」 須藤隆司（黒耀石研究センター）

■第3回 7月24日（土）

「東海地方西部の石材環境と神津島産黒耀石両面体石器」 平井義敏（黒耀石研究センター）

「東海地方東部における神津島産黒耀石製両面体石器群の変形・運用とその社会的背景」 池谷信之（黒耀石研究センター）

■第4回 11月28日（日）黒耀石研究センターシンポジウムと合同開催。

（池谷信之）

（3）黒耀石研究センター研究集会

黒耀石研究センター構成員の一年間の研究成果を持ち寄り、議論を通じて次の共同研究の発想を得ることを目的として年1回の研究集会を開催している。例年は構成員以外にも公開してきた研究集会であるが、昨年に引き続き今年も構成員のみでオンラインにて開催することになった。

■日時：2022年3月5日（土）13：00～17：00

プログラム

13：00～ 開会

【口頭発表】

13：10～13：20 中村由克「黒耀石晶子形態にもとづく原産地推定と他石材研究の展望」

13：20～13：40 平井義敏「湯ヶ峰における下呂石の石質と分類について」

13：40～14：00 池谷信之「伊豆東南海岸田京山遺跡出土の神津島産黒耀石原石とその意味」

【口頭概要】

14：00～14：05 藤山龍造「旧石器時代にストーンボイリングは存在したか」

14：10～14：15 諏訪間 順「箱根東麓の立川ローム層」

14：05～14：10 矢島國雄「アラスカ・ホットスプリング遺跡のノートン石器群」

14：15～14：20 石川日出志「銅鐸形成過程に関する資料調査から」

〈14：20～14：40 質疑〉

〈14:40~14:50 休憩〉

【口頭発表】

14:50~15:10 能城修一「長野県佐久市香坂山遺跡から出土した炭化材から復元する約37,000年前の森林植生」

15:10~15:30 会田 進「茅野市永明中学校遺跡における弥生時代炉覆土フローテーションの成果」

15:30~15:50 佐々木由香「福井県鳥浜貝塚出土編みかごの素材植物と技法、復元から見た縄文時代前期の植物利用」

15:50~16:10 遠藤英子「穀物栽培の伝播と拡散：日本列島とウクライナの論文2報紹介」

16:10~16:30 谷畑美帆「出土人骨における古病理学的所見」

〈16:30~16:50 質疑〉

16:50~ 閉会

【紙上発表】

栗島義明「荒川流域の石斧石材」

島田和高「入笠山大阿原湿原の調査概要と p-XRF 黒耀石原産地分析の現状」

絹川一徳「富士・箱根火山の活動と畑宿産を主とする箱根系黒耀石利用の変容について（予察）」

須藤隆司「黒耀石原産地研究と石刃石器群研究の新地平」

大工原 豊「いわゆる飛行機鎌の終焉」

水沢教子「縄文時代中期埋甕の胎土分析」

堤 隆 「浅間火山南麓の平安時代集落」

小野 昭「フロント採掘の翻訳で再認識した方法上の難しさ」

（４）国際研究交流

① IOC Barkley 2021参加報告

2021年4月30日～5月2日

新型コロナウイルスの影響を回避するためオンラインでの開催となり、恒例となっていたフィールドワークは中止となった。黒耀石研究センターからは、池谷信之・島田和高・小野昭が参加した。

池谷は「The “Kozushima Obsidian Shuttle” across the Pacific and the Migration of *Homo sapiens* to the

Japanese Archipelago.」を口頭で発表し、小野は閉会にあたり「Closing announcements and updates on the next IOC meeting」としてスピーチし、次回開催地である遠軽町長のメッセージを紹介した。

今回のIOCでは、過去のデータも含めた測定結果のアーカイブ化の試みや、p-XRFを用いた定量値による産地推定例の増加が顕著な傾向して認められた。しかしながら、原産地と消費地を直線で結びつけて結論を得る「古典的」な方法も依然として多かった。2023年のIOC遠軽では、原産地推定結果を石器や石材受給関係の分析に取り込む日本ならではの方法和成果をどう示すかが課題となる。（池谷信之）

②国際黒耀石会議遠軽大会2023の準備状況について

国際黒耀石会議 International Obsidian Conference (IOC) は、2023年に北海道紋別郡遠軽町で開催予定である。明治大学黒耀石研究センターからは準備の委員を出し、大きな役割を担っているため準備状況を簡潔に報告する。

この会議の始まりは2011年に黒耀石研究センター（長和町）で開催したワークショップ会議に始まる。第2回は2016年にイタリアのリパリ島で開催された。なお会議の数え方について多様な意見が出たので、会議の記載方法を統一した。〈IOC・開催都市・開催年〉でしめすことを決定した。2019年にはハンガリーのシャーロシュパタックで、2021年にはアメリカのパークレーでZoomによるインターネット大会を開催した。

遠軽大会は〈IOC Engaru 2023〉の表記のもと、準備を進めている。予定の会期は2023年7月3日～6日の予定。1日のExcursionを含む。世界各地からの広い参加を期待し、遠軽の現地 on-site とインターネット参加の併用を予定している。準備は白滝ジオパーク推進協議会国際黒耀石会議学術運営部会が Local Organizing Committee となり、現在のところ以下の6つのセッションを組んでいる。Formation of obsidian from the geological aspect. / Obsidian sources and their characterization. / Analytical methods and obsidian database. / Cultural aspects of obsidian

by archaeological periods. / Lithic technology and traceological studies. / Geological heritage and regional development with archaeological obsidian.

最初のお知らせ Flyer はすでに国内外の関係機関を中心に送信済みである。First Circular は2022年5月を目途に配信予定である。日本各地からも多くの研究者や学生の参加を実現するため、黒耀石研究センターとしても準備の支援を進める。(小野 昭)

③外国人学識者の招聘プログラムに関して

2021年に延期された明治大学国際交流基金事業外国人学識者招聘プログラムは、Covid-19の感染拡大のために中止を余儀なくされた。この事業については2022年度への再度の延期が決定し、招聘を予定したベトナム社会科学院考古学研究所長の Ngyen Gia Doi 氏にその旨を通知した。招聘ではベトナム中部ジャライ県の前期旧石器時代遺跡 (An Khe) の成果を中心に、研究現状についての発表を中心に研究交流をおこなう予定である。

(栗島義明)

(5) 明治大学博物館公開講座 考古学ゼミナール『先史・古代の海洋民を考える』

6月4日(金)第1回「旧石器・縄文時代の人と海」
担当：池谷信之

新型コロナウイルスの影響を考慮して、ライブ配信によって講座を実施した。

Ⅲ 大学教育および地域連携、社会貢献

(1) 大学教育との連携

大学教育との連携の一環として、栗島が黒耀石研究センターでの活動や研究成果を交えた以下の明治大学の講義を担当した。

和泉：「考古学概論ⅡA」・「考古学概論ⅡB」

駿河台：「旧石器時代の考古学A」「旧石器時代の考古学B」

考古学概論では春期に埋蔵文化財や保護行政上の手続き、秋期に旧石器時代研究の現状と課題についての講義を実施した。旧石器時代の考古学では人類進化から文化

的な発展、ユーラシア大陸から日本列島への人類の移住、そして日本列島における旧石器時代文化の特徴や様々な石材を用いた石器製作技術などを講義した。

(栗島義明)

(2) 国史跡「星糞(ほしくそ) 峠黒耀石原産地遺跡」の野外展示施設オープニングセレモニー

■日時：2021年7月19日(月)

縄文時代の黒耀石採掘坑を観察できる野外展示施設「星くそ館」が長和町黒耀石体験ミュージアムの附属施設としてオープンした。7月19日(月)に開催されたオープニングセレモニーには、黒耀石研究センターから石川センター長・池谷副センター長・須藤特別嘱託が参加し、石川センター長が明治大学学長からのメッセージを披露するとともにお祝いの挨拶をした。(池谷信之)

Ⅳ 黒耀石研究センターの運営

(1) 運営委員会

2021年度黒耀石研究センター運営委員会を以下の通り開催し、審議事項について委員会の了承を得た。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、e-mailにて資料配布と審議を行った。

■日時：2021年6月18日(金)19:00～

場 所：研究知財会議室(駿河台キャンパス グローバルフロント6階)

【配布資料】

資料 No.1 2020年度第2回明治大学黒耀石研究センター運営委員会議事録(案)

資料 No.2 2022年度長期・中期計画書及び単年度計画書(案)

資料 No.3 資料 No.2についての説明資料

【議題】

① 2020年度第2回黒耀石研究センター運営委員会議事録(案)について(資料 No.1)

② 2022年度長期・中期計画書及び単年度計画書(案)について(資料 No.2・3)

③ その他

(2) 施設利用

- ①谷畑美帆（客員研究員）：通年で、猿楽町校舎第1研究室にて、愛知県豊橋市の市杵嶋神社古墳群出土の中世人骨の分析を実施。
- ②佐々木由香（客員研究員）：通年で、猿楽町校舎第1～3研究室にて、植物遺存体、原生植物標本、土器圧痕ほかの分析を実施。
- ③中村由克（客員研究員）：2021年7月19日～20日、明治大学黒耀石研究センターにおいて黒耀石ほか石材サンプル作成。2021年9月15日～17日、同センターにおいて石器石材調査。2021年10月13日～14日および11月9日～11日、同センターにおいて黒耀石晶子形態顕微鏡観察。
- ④隅田祥光（長崎大学）：2021年6月21日～25日、長崎県川棚町大崎半島の黒耀石と流紋岩のWDXRFによる定量分析。2021年12月13日～22日、カルパチア山脈および長崎県西海市の黒耀石のWDXRFによる定量分析。2022年2月27日～3月9日、伊豆諸島および伊豆半島産出の流紋岩および黒耀石のWDXRFによる定量分析。

(3) 分析機器の設置・管理の状況

猿楽町第1研究室に設置されている日本電子製エネルギー分散型蛍光X線分析装置(JSX-3100)は、昨年度の修理を経て、4月5日に山田が池谷から操作方法のレクチャーを受けた。4月12日からは、黒耀石研究センター(長和町)に設置されている機材との分析値の互換関係を検証するための標準サンプルの測定を開始した。2か月ほど測定を繰り返し、装置の調整と安定的な測定値の取得を試みたが測定回毎のバラつきが激しいため、日本電子に測定結果を照会し、相談した。その結果、重元素の精度(ばらつき)の大きさ(Nither precise nor true)が目立つ状況になっていることが指摘された。器械内のトランスの不良か管球の劣化が原因と考えられ、高額な修理費が必要となるため、これ以降本装置の稼働は行わないことで、センター長および研究知財事務室から了承を得た。

(4) 黒耀石研究センター月例会

原則的に月に1回、月例会を開催し、研究の進捗を報告し、センター運営について協議した。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響から、全回オンラインミーティング形式で行い、センター構成員および研究知財事務室職員が参加した。

開催日：2021年4月23日、5月21日、6月25日、7月16日、9月15日、10月29日、11月19日、12月17日、2022年1月21日、2月21日、3月14日。

(5) 日誌抄

2021年4月1日 黒耀石研究センター館内の業者による防災点検。

2021年4月5日 池谷副センター長、猿楽町研究室へ出張。猿楽町研究室に設置されている蛍光X線分析装置の精度を確認するため標準試料を持参、特別囑託・山田に操作方法をレクチャーした。以降、計画を立てて標準試料を繰り返し測定し、精度の確認を実施した。

2021年4月19日 池谷副センター長、静岡県文化奨励賞審査のため静岡市に出張。

2021年4月30日～5月2日 IOC 2021 Barkley 新型コロナウイルスの影響を回避するためオンラインでの開催となり、黒耀石研究センターからは、池谷信之・島田和高・小野昭が参加した。

2021年6月4日 池谷副センター長、猿楽町研究室へ出張。蛍光X線分析装置の精度確認および共同利生スペースの確保のため研究室のレイアウト変更を実施した。

2021年6月10日 長和センターにて蛍光X線分析法講習会開催、黒耀石研究センター4名、長野県立歴史博物館から2名参加。

2021年6月21日 蛍光X線分析装置の精度が分析に使用できるものではないことが確認されたため、猿楽町研究室での測定を断念した。

2021年7月12日 第1回紀要編集委員会開催

2021年7月19日 センター紀要『資源環境と人類』第12号投稿募集を通知

2021年7月20日 蛍光X線分析装置JSX-3100Ⅱターレット改良。

2021年8月10日～16日 黒耀石研究センター夏期閉館。
 2021年8月25日 センター紀要投稿募集を締切
 2021年9月8日 第2回紀要編集委員会をオンラインにて開催
 2021年9月17日 (株) ラング横山氏, 実測委託石器受け取りのため黒耀石研究センター来訪。
 2021年9月30日 ニューズレター No.15発行
 2021年10月1日 黒耀石研究センター館内の業者による防災点検。
 2021年10月6日 中村由克客員研究員が猿楽町研究室へ来訪。研究に使用する光学顕微鏡2台を貸出。
 2021年10月10日 池谷副センター長・須藤特別囑託, シンポジウム『日本列島のなかの腰岳黒耀石』(伊万里市教育委員会・腰岳原産地研究グループ主催)にオンライン参加。
 2021年11月1日 創立記念日のため閉館。
 2021年11月8日 荒川理事・大原理事・中里理事・田部井理事・関谷部長, 黒耀石研究センター施設等の視察。
 2021年11月10日 黒耀石研究センター館内特別清掃実施。
 2021年11月11日 黒耀石研究センター周辺で初雪。
 2021年11月26日 理事者4名と研究知財事務長および研究知財担当者が猿楽町研究室を視察。
 2021年11月28日 黒耀石研究センター・信州黒耀石フォーラム第4回例会共催「資源環境と人類シンポジウム2021」『黒耀石研究の新動向—原産地分析をめぐって—』開催
 2021年12月8日 メルク社製純水装置点検と部品交換。
 2021年12月10日 池谷副センター長, 長和町黒耀石ミュージアム友の会にて「世界最古の往復航海」と題して講演。
 2021年12月10日 センター紀要投稿締切
 2021年12月14日 帝京大学文化財研究所金井拓人, 黒耀石研究センター来訪, 産総研標準試料と国内12原産地内標準資料のJSX-3100IIによる検量線作成。
 2021年12月15日 第3回紀要編集委員会をオンラインにて開催
 2021年12月17日 夜から降雪, 今年初の積雪(6cm)。
 2021年12月25日～1月7日 冬期休業。
 2022年1月6日 (株) ラング横山, 実測委託石器返却

のため黒耀石研究センター来訪。

2022年1月17日 創立記念日のため閉館。
 2022年3月5日 黒耀石研究センター研究集会をオンラインにて開催
 2022年3月末(予定) センター紀要『資源環境と人類』第12号(本誌)発行
 2022年3月末(予定) ニューズレター No.16発行

(6) 2021年度黒耀石研究センターの組織

センター長 石川日出志(文学部教授)
 副センター長 池谷信之(黒耀石研究センター特任教授)
 センター員 藤山龍造(文学部教授)
 センター員 栗島義明(黒耀石研究センター特任教授)
 センター員 矢島國雄(文学部名誉教授)
 センター員 小野 昭(元黒耀石研究センター長)
 センター員 島田和高(博物館事務室・学芸員)
 センター員 能城修一(研究・知財戦略機構客員教授)
 客員研究員 会田 進(元長野県考古学会長)
 客員研究員 遠藤英子(東京都立大学プレミアムカレッジ特任助教)
 客員研究員 絹川一徳(かながわ考古学財団)
 客員研究員 諏訪間 順(小田原城天守閣館長・学芸員)
 客員研究員 大工原 豊(國學院大學文学部兼任講師)
 客員研究員 谷畑美帆(文学部兼任講師)
 客員研究員 堤 隆(御代田町浅間縄文ミュージアム)
 客員研究員 中村由克(下仁田町自然史館館長)
 客員研究員 水沢教子(長野県立歴史館)
 客員研究員 佐々木由香(金沢大学古代文化・文化資源学研究センター考古科学部門特任准教授)
 客員研究員 平井義敏(みよし市教育委員会教育部教育行政課歴史民俗資料館)
 特別囑託 須藤隆司
 特別囑託 山田綾乃
 運営委員
 石川日出志, 池谷信之, 矢島國雄, 藤山龍造(以上, 黒耀石研究センター)
 関谷俊郎(研究推進部長)
 佐藤宏之(東京大学人文社会系研究科教授)

長崎潤一（早稲田大学文学学術院教授）
事務局
小林慶吾（研究知財事務室）

IV 研究業績一覧

（1）雑誌論文・著書

- 阿部芳郎・栗島義明・米田 穰 2021「土器の作り分けと使い分け—土器付着物の安定同位体分析からみた後晩期土器の器種組成の意味—」『日本考古学』53：1-21
- Baas, P., Fujii, T., Kato, N., Mertz, M., Noshiro, S. and Thijssse, G. 2021. Mogami Tokunai's wood collection from Hokkaido, Japan: an early record of Ainu wood culture. *IAWA Journal* 42: 349-364.
- Endo, E. and Leipe, C. (in press) The onset, dispersal and crop preferences of early agriculture in the Japanese archipelago as derived from seed impressions in pottery. *Quaternary International*.
- Endo, E., Nasu, H., Haskevych, D., Gershkovich, Y., Videiko, M. and Yanevich, O. (in press) Re-identification of plant impressions on prehistoric pottery from Ukraine. *Journal of Archaeological Science: Reports*.
- Endo, E. (in press) Exploring seed impressions within the fabric of pottery: Using a silicone cast method for reliable identification. In *Millet and what else? The wider context of the adoption of millet cultivation in Europe*. (eds.) Kirleis, W., Dal Corso, M. and Filipovic, D. Sidestone Press, Leiden.
- 藤山龍造 2021「狩猟採集社会における土器の誕生」『季刊考古学』155：20-25
- 平井義敏 2021「研究ノート 湯ヶ峰における下呂石の石質と分類について」『斐太紀』27：57-71.
- 平井義敏・池谷信之 2021「東海地方西部における神津島産黒曜石製両面体石器群」『東海石器研究 - 齊藤基生先生追悼号 - 』11：109-119.
- 保坂康夫・金井拓人・池谷信之・十菱駿武 2021「縄文時代早期の黒曜石・水晶の利用状況—山梨県奥豊原遺跡の原産地分析を中心に—」『山梨県考古学協会誌』28：1-16
- 池谷信之 2021「大塚台遺跡出土の黒曜石原産地推定結果報告」『首都圏中央連絡道埋蔵文化財調査報告書 38—多古町大塚台遺跡（1）～（3）—』千葉県教育振興財団調査報告784：62-65
- 池谷信之 2021「下ヶ戸貝塚出土黒曜石製石器の原産地推定」『下ヶ戸貝塚Ⅷ 下ヶ戸貝塚第5次・6次・7次・9次・11次発掘調査報告書』我孫子市埋蔵文化財報告64：335-340
- 池谷信之 2021「富士宮市小塚遺跡出土黒曜石の原産地推定と縄文前期後葉の黒曜石供給」『向坂鋼二先生米寿記念論集 地域と考古学Ⅱ』向坂鋼二先生米寿記念論集刊行会：89-97
- 池谷信之・須藤隆司・国武貞克 2021「長野県佐久市香坂山遺跡出土黒曜石の原産地推定」『資源環境と人類』11：93-100
- 柿沼幹夫・遠藤英子 2021「弥生時代から古墳時代前・中期の穀物栽培—さいたま市域のレプリカ法調査—」『さいたま市アーカイブズセンター紀要』5：23-55
- 金井拓人・池谷信之・保坂康夫 2021「pXRFを用いた黒曜石原産地推定の実用化と甲府盆地東部における縄文時代前期後半の黒曜石利用」帝京大学文化財研究所研究報告20：147-173
- 加藤 学・池谷信之・沢田 敦 2021「新潟県上越市大潟区丸山遺跡採集の木葉形尖頭器—北海道置戸山産黒曜石の検出—」『新潟考古』32：133-141
- 小林和貴・佐々木由香・村上由美子・能城修一・鈴木三男 2021「京都市白河街区・延勝寺跡出土編組製品の素材植物」『京都大学構内遺跡調査研究年報2019年度』：120-121, 京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター京都大学文化遺産調査活用部門.
- 小林和貴・鈴木三男・佐々木由香・能城修一 2021「向方南遺跡E地点出土編組製品および土器補修紐等の素材同定」『東京都杉並区向方南遺跡E地点』：129-135, 野村不動産・株式会社 CEL.
- 金剛萱遺跡研究会 2021「金剛萱遺跡の旧石器文化6-2020-」『下仁田町自然史館研究報告』6：55-60（中村由克：執筆責任者）
- 國木田 大・佐々木由香・小笠原善範・設楽博己 2021

- 「青森県八戸市八幡遺跡出土炭化穀物の年代をめぐって」『日本考古学』52：59-73
- 国武貞克・須藤隆司・堤 隆 2021「日本列島最古の石刃石器群の構成とその起源」『旧石器研究』17：125-146
- 栗島義明 2021「神子柴遺跡出土の両面加工石器～細石刃核原形としての再評価～」『考古学集刊』16：1-20
- 栗島義明 2021「大珠分割とその社会的背景」『埼玉考古』56：1-16
- 栗島義明 2021「移動生活と塩分補給～広域移動を支えた塩化物泉の存在～」『利根川』43：59-73
- 栗島義明 2022「砂川遺跡—2万5000年前の家族団らの跡—」『所沢の歴史と民俗』さいたま民俗文化研究所（印刷中）
- 栗島義明 2022「内陸部の塩泉利用」『季刊考古学』160, 雄山閣（印刷中）
- 栗島義明 2022「木胎製作と磨製石斧」『縄文の漆と社会 先史文化の新展開Ⅲ』雄山閣（印刷中）
- 栗島義明 2022「磨製石斧の土器収納」『資源環境と人類』12：1-19
- 栗島義明 2020「資源環境への適応」「低地の遺跡—低地に残された木組遺構とは？—」「縄文時代の木製品」「ヒスイ・コハク・貝—装身具の製作とその広域分布—」『黒耀石研究センター叢書Ⅱ：縄文時代』雄山閣（印刷中）
- Leipe, C., Endo, E., Kuramochi, S., Wagner, M. and Tarasov, P. E. 2021 Crop cultivation of Middle Yayoi culture communities (4th century BCE–1st century CE) in the Kanto region, eastern Japan, inferred from a radiocarbon-dated archaeobotanical record. *Vegetation History and Archaeobotany* 30: 409-421.
- 前原 豊・大工原 豊・加部二生 2021「群馬県東道上遺跡採集の爪形文土器と石器群」『利根川』43：36-58
- 水沢教子 2021「サケ・マス論とその利用」『松井章著作集 動物考古学論』新泉社
- 水沢教子（編）2021『長野県立歴史館令和3年度秋季企画展図録 全盛期の縄文土器—圧倒する褶曲文—』長野県立歴史館
- 水沢教子 2022「屋代遺跡群出土被覆型埋甕とその胎土」『長野県立歴史館研究紀要』第28号（印刷中）
- 中村由克 2021「珪質頁岩石材産地推定のための解析法 - 秋田県地蔵田遺跡出土石器を例として - 」『旧石器研究』17：157-167
- 中村由克 2021「日本海沿岸域にひろがる白色石材・方解石 - 福井県鳥浜貝塚の珧状耳飾をめぐって - 」『玉文化研究』5：1-8
- 中村由克 2021「下呂石製石器の石材採集地の推定法」『東海石器研究』11：21-30
- 中村由克 2022「和田鷹山群 - 黒曜石の顕微鏡観察, 昌子形態にもとづく原産地推定の可能性」『資源環境と人類』12：77-87
- 中村由克・松田清孝・松本 茂 2021「宮城県山田遺跡の石器石材の再検討」『九州旧石器』25：265-274
- 中村由克・齊藤尚人・小林忠夫 2021「下仁田町馬山区の下位段丘群の区分」『下仁田町自然史館研究報告』6：107-108
- 野尻湖人類考古グループ 2021「仲町丘陵発掘2019の考古学的成果」『野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告』29：11-17（中村由克：執筆責任者）
- Noshiro, S., Sasaki, Y., Murakami, Y. 2021. Importance of *Quercus gilva* (イチイガシ) for the prehistoric periods in western Japan. *Japanese Journal of Archaeology* 8: 133-156.
- 能城修一・佐々木由香・国武貞克 2022「長野県佐久市香坂山遺跡から出土した炭化材から復元する約37,000年前の森林植生」『資源環境と人類』12：111-120
- 能城修一・佐々木由香 2021「出土木材の樹種同定」『石川原遺跡（3）—縄文時代編—第3分冊 分析・成果編』：27-33, 国土交通省・群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 能城修一・佐々木由香 2021「石川原遺跡の植生と環境」『石川原遺跡（3）—縄文時代編—第3分冊 分析・成果編』, 222-224, 国土交通省・群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 能城修一・吉川昌伸・佐々木由香 2021「縄文時代の日本列島におけるウルシとクリの植栽と利用」『国立歴史民俗博物館研究報告』252：59-78
- 大網信良・守屋 亮・佐々木由香・長佐古真也 2021「土

- 器圧痕からみた縄文時代中期における多摩ニュータウン遺跡群の植物利用と遺跡間関係（第2報）『東京都埋蔵文化財センター研究紀要』XXXV：1-29
- 太田 圭・山下優介・領塚正浩・佐々木由香・百原 新・那須浩郎・設楽博己 2021「レプリカ法による市川市域出土の縄文土器の圧痕調査」『市川市考古博物館報』48：31-50, 市川市考古博物館
- 大塚宜明・池谷信之・工藤 大 2021「アイヌ文化期における黒耀石の利用とその変容—せたな町南川2遺跡を中心に—」札幌学院大学人文学会紀要110：79-100
- 大塚宜明・池谷信之・工藤 大 2022「統縄文時代の渡島半島における黒耀石利用の変遷とその背景」『資源環境と人類』12：51-75
- Ono, A. (in press) Evidence of Symbolic Behavior during the Palaeolithic Period in Northeast Asia. *Proceedings of the 57th Hugo Obermaier-Gesellschaft*, Heidenheim, 7th -11th April 2015. Kerns Verlag, Tübingen.
- 領塚正浩・米田 穰・近藤 修・谷畑美帆・山口晴香・皆川真莉母（印刷中）「権現原貝塚 P65集骨墓の再検討」『市史研究いちかわ』13号
- 佐々木由香 2021「縄文時代の植物利用」『グリーン・エージ』48-2：34-37, 日本緑化センター
- 佐々木由香 2021「縄文時代の植物利用にみる縄文人の知恵」『グリーン・エージ』48-3：32-35, 日本緑化センター
- 佐々木由香 2021「土器圧痕からみた植物利用」『縄文早期の居家以人骨と岩陰遺跡』p.24, 國學院大学博物館
- 佐々木由香 2021「七社神社前遺跡出土土器の種実圧痕からみた縄文時代前期の植物利用」『北区飛鳥山博物館研究報告』23：3-12
- 佐々木由香 2021「下ヶ戸貝塚から出土した炭化種実」我孫子市教育委員会編『下ヶ戸貝塚Ⅷ』：319-322, 我孫子市教育委員会
- 佐々木由香 2021「向方南遺跡 E 地点の現地取り上げ種実の同定」『東京都杉並区向方南遺跡 E 地点』：162-184, 野村不動産・株式会社 CEL
- 佐々木由香 2021「編組製品に見る縄文時代の植物利用と加工」『グリーンパワー』511号：216-219, 森林文化協会
- 佐々木由香 2021「土器の圧痕が明らかにする考古学の展開」『日本歴史』880号：19-22, 吉川弘文館
- 佐々木由香 2021「縄文時代の植物資源利用」『月刊みんぱく』2021年9月号：16-17, 国立民族学博物館
- 佐々木由香 2021「オニグルミ核・ヒメグルミ核」『石川原遺跡（3）—縄文時代編—第3分冊 分析・成果編』：52-80, 国土交通省・群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 佐々木由香 2021「鳥浜貝塚のかご」福井県立若狭歴史博物館編『鳥浜貝塚発見60周年記念特別展 森と出会った縄文人 人と植物の歴史の始まり』30-37, 福井県立若狭歴史博物館
- 佐々木由香 2021「下宅部遺跡で利用された植物資源—編組製品を中心に」『「東京都下宅部遺跡出土品」重要文化財指定記念シンポジウム 縄文時代の植物利用資料集』：14-17, 東村山市教育委員会・東村山ふるさと歴史館
- 佐々木由香・Bhandari Sudarshan 2021「取掛西貝塚（5）の炭化種実」船橋市教育委員会文化財埋蔵文化財調査事務所編『取掛西貝塚（5）II』：280-286, 船橋市教育委員会
- 佐々木由香・小林謙一・西本志保子・金子悠人・小林尚子・山本 華 2021「清水が丘遺跡出土土器にみられる種実圧痕」『新 府中市史研究 武蔵府中を考える』第3号：24-30
- 佐々木由香・森 勇一 2021「向方南遺跡 E 地点出土の土器集中の堆積物から得られた大型植物遺体と昆虫遺体」『東京都杉並区向方南遺跡 E 地点』：185-189, 野村不動産・株式会社 CEL
- 佐々木由香・米田恭子 2021「向方南遺跡 E 地点出土の縄文土器付着炭化物の同定」『東京都杉並区向方南遺跡 E 地点』：190-199, 野村不動産・株式会社 CEL
- 佐々木由香・米田恭子・藤田三郎 2021「唐古・鍵遺跡出土土器付着炭化物から見た弥生時代の鱗茎利用」『田原本町文化財調査年報27 2018年度』：37-144, 田原本町教育委員会
- 島田和高・隅田祥光 2022「携帯型蛍光 X 線分析装置

- Bruker Tracer 5i を用いた黒曜石原産地分析法の構築」『資源環境と人類』12 : 37-49
- 島田和高 2022「中部高地黒曜石原産地および周辺地域における後期旧石器時代石器群の p-XRF を用いた原産地分析—雪不知遺跡, 茶臼山遺跡, 八島遺跡—」『資源環境と人類』12 : 121-131
- 庄田慎矢・バンダリ スタルシャン・佐々木由香・村上夏希・劉歆益 2021「甘樫丘東麓遺跡出土コムギ炭化種子のユーラシア考古植物学的位置づけ」『奈文研論叢』2 : 29-65, 国立文化財機構奈良文化財研究所
- Suda, Y., Adachi, T., Shimada, K. and Osanai, Y. 2021 Archaeological significance and chemical characterization of the obsidian source in Kirigamine, central Japan: Methodology for provenance analysis of obsidian artefacts using XRF and LA-ICP-MS. *Journal of Archaeological Science* 129: 105377
- 須藤隆司 2021「大陸系石刃技術と石刃技術の日本列島化：香坂山遺跡と八風山Ⅱ遺跡の関係性」『香坂山遺跡2020年発掘調査成果報告書』奈良文化財研究所：164-173
- 須藤隆司 2022「小型両面調整石器群形成期の黒曜石原産地行動と社会システム」『資源環境と人類』12 : 89-110
- 須藤隆司・阿久澤智和・前原 豊・池谷信之 2021「赤城山麓削片系細石刃石器群に伴う黒曜石の原産地推定結果とその検討—頭無遺跡・鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡の事例—」『旧石器研究』17 : 147-155
- 諏訪 順 2021「氏康の館と永祿の火災」『小田原城天守閣特別展図録 北条氏康伝』小田原城天守閣：134-135
- 谷畑美帆 2021『鈴鳴りの彼方で』256p., つむぎ書房
- 堤 隆 ほか編著 2021『佐久の考古遺産』100頁, 佐久考古学会（「佐久の旧石器時代」(p.7), 「八風山遺跡群」(p.9), 「矢出川遺跡」(p.11), 「中ッ原遺跡群」(p.12), 「麦草峠黒曜石原産地」(p.13), 「川原田遺跡」(p.20), 「社宮司遺跡」(p.51), 「野火付遺跡」(p.71), 「三寅剣」(p.81), 「御牧ヶ原出土梵鐘」(p.82)）
- 堤 隆（監修）・今井恭子（著）2021『縄文の狼』290p., くもん出版
- 山本 華・佐々木由香 2021「土器圧痕からみた縄文時代のシソ属果実」『古代』147 : 57-90, 早稲田大学考古学会
- 山本 華・佐々木由香・西本志保子・小林謙一・金子悠人 2021「レプリカ法による土器圧痕の同定」『三鷹市文化財年報・研究紀要』3 : 115-117
- 山本 華・佐々木由香・竹原弘展 2021「レプリカ法とX線透過撮影による土器種実圧痕の検討」『北区飛鳥山博物館研究報告』23 : 25-36
- 山本 華・佐々木由香 2021「レプリカ法による土器種実圧痕の同定」『木の根田遺跡 内出遺跡』：50-53, 美浦村教育委員会
- 山本 華・佐々木由香 2021「レプリカ法による土器種実圧痕の同定」『天王山遺跡』：100-117, 白河市
- 山本 華・佐々木由香 2021「レプリカ法による土器圧痕の同定」船橋市教育委員会文化財埋蔵文化財調査事務所編『取掛西貝塚（5）Ⅱ』：274-279, 船橋市教育委員会
- （2）学協会発表（講演要旨・予稿集・紙上発表）
- Endo, E. High-resolution assessment of plant impressions in pottery. Pottery Impression and Archaeobotany (International Online Seminar), 23 March 2021, Nara National Research Institute for Cultural Properties. Oral presentation.
- 遠藤英子・柿沼幹夫「弥生時代から古墳時代にかけての妻沼低地・大宮台地周辺での栽培穀物利用の変遷」日本植生史学会第36回大会, 2021年10月31日, 帝京大学文化財研究所（『講演要旨集』：50-51）, ポスター（オンライン）
- 藤野次史・中村由克・沖 憲明・稲村秀介・森本直人「広島県域における地域石材と石材調査—高田流紋岩類を中心に—」日本旧石器学会第19回研究発表, 2021年6月19日, オンライン（『日本旧石器学会第19回研究発表・シンポジウム予稿集 北海道の旧石器時代と集団』：32-35）, 口頭
- 藤山龍造「大鹿窪遺跡の集落形成とその評価」静岡県考古学会シンポジウム（「縄文時代草創期の初期定住とその環境—富士山麓からの視点—」）, 2022年3月27日,

- オンライン, 口頭
池谷信之「黒曜石原産地推定法をめぐる研究動向—1994年以降を中心に—」明治大学黒曜石研究センター 資源環境と人類2021シンポジウム・信州黒曜石フォーラム第4回例会『黒曜石研究の新動向—原産地推定法をめぐって—』, 2021年11月28日, オンライン (『黒曜石研究の新動向—原産地推定法をめぐって—』: 1-5), 口頭
- 小林謙一・佐々木由香・西本志保子・金子悠人・山本華・小林尚子・中山真治「縄文中期土器文様装飾時におけるダイズの意図的混和例」日本考古学協会第87回総会, 2021年5月23日, 専修大学 (『日本考古学協会第87回総会研究発表要旨』 p.101), ポスター
- 小林謙一・西本志保子・金子悠人・佐々木由香・山本華「神奈川県大日野原遺跡における縄文中・後期の昆虫及び種子圧痕」日本文化財科学会第38回大会, 2021年9月19日, オンライン (『日本文化財科学会第38回大会研究発表要旨集』), ポスター
- 國木田 大・佐々木由香・山下優介・稲田健一・設楽博己「関東地方における弥生時代の穀類利用の年代研究(2)」日本文化財科学会第38回大会, 2021年9月19日, オンライン (『日本文化財科学会第38回大会研究発表要旨集』), ポスター
- 松野美由樹, 片山葉子, 犬塚将英, 稲田健一, 矢島國雄, 佐藤嘉則「虎塚古墳の壁画剥落片に形成された独特な微生物叢」日本文化財科学会第38回大会, 2021年9月18・19日, ポスター
- 水沢教子「大木式土器文様の南下」山梨県考古学協会2021年度研究集会: 曾利式土器とその周辺, 山梨県考古学協会, 2021年11月20・21日, オンライン, 口頭
- 中村由克・飯塚義之「透閃石ネフライト製球状耳飾の再評価」日本第四紀学会2021年大会発表要旨, 2-2, 2021年8月27日 (オンライン開催), 口頭
- 能城修一「長野県星葉峠黒曜石原産地遺跡から出土した縄文時代後期の土木材の樹種選択」日本植生史学会第36回大会, 2021年10月31日, ハイブリッド大会 (『日本植生史学会第36回大会講演要旨集』, 37), 口頭
- 小野 昭「旧石器捏造事件を契機とした問題意識と体制の変革—過誤に学ぶ—」2021年度日本旧石器学会普及講演会「日本旧石器時代研究の現在—旧石器捏造発覚から20年—」, 2021年9月25日, オンライン (『発表要旨』: 1-2), 口頭
- Sasaki, Y. 2021 Domestication in the genus *Perilla* during the Jomon period seen from a large number of their seed impressions in pottery. International Online Seminar: Pottery Impression and Archaeobotany, 23rd March 2021, Online, Oral presentation.
- 佐々木由香「植物資源利用から見た縄文時代の生活基盤の整備」考古学研究会第67回総会・研究集会, 2021年4月24日, 岡山大学 (『研究集会資料集』: 25-34), 口頭
- 佐々木由香「縄文晩期から弥生中期における南関東地方の環境変遷と植物利用」日本考古学協会第87回総会, 2021年5月23日, 専修大学 (『日本考古学協会第87回総会研究発表要旨』: 42), 口頭
- 佐々木由香「日本古代王権の布に関わる植物考古学的アプローチ」日本考古学協会分科会IV発表, 2021年10月17日, 金沢大学, 口頭
- 佐々木由香 考古学研究会東京例会・座談会, 2021年11月13日, 口頭
- 佐々木由香・鈴木三男・小林和貴・能城修一・鯉本真友美「福井県鳥浜貝塚出土編みかごの素材植物と技法から見た縄文時代前期の植物利用」日本植生史学会, 2021年10月31日, 帝京大学文化財研究所とZoomによるハイブリッド大会 (『日本植生史学会第36回大会講演要旨集』: 38), 口頭
- 島田和高「携帯型蛍光X線分析装置(p-XRF)を用いた黒曜石原産地出土石器の成分分析—検量線法による原産地推定の実践と課題—」資源環境と人類2021シンポジウム・信州黒曜石フォーラム第4回例会, 2021年11月28日 (『黒曜石研究の新動向—原産地推定法をめぐって—』(オンライン版): 10-11), 口頭
- 須藤隆司「赤城山麓の初期石刃石器群—善上遺跡の大陸系初期石刃技術—」岩宿フォーラム2021/シンポジウム「日本列島における石刃石器群の出現」, 2021年11月7日, 岩宿博物館 (『日本列島における石刃石器群の出現』: 17-28), 口頭

国武貞克・須藤隆司・堤 隆・國木田 大・佐藤宏之
2021「長野県佐久市香坂山遺跡の発掘調査—日本列島における石刃石器群の起源をめぐる調査研究—」日本考古学協会第87回総会研究発表, 2021年5月23日, オンライン(『日本考古学協会第87回総会研究発表要旨』:30), 口頭

谷畑美帆「保美貝塚出土人骨における古病理学的所見」第75回日本人類学会大会, 2021年10月10日, オンライン, 口頭

谷畑美帆「江戸時代の人々の口元」第34回江戸遺跡研究会大会, 2022年1月29日, オンライン, 口頭

(3) 講習会, 学習講座, フォーラム等

会田 進「縄文の大地からメッセージ」原村2021年度第1回生涯学習アカデミー原村塾, 2021年5月20日, 原村公民館講堂, 講師

会田 進「地球・人にやさしい縄文文化と縄文の女性」第30回諏訪地方女性懇談会, 2021年11月18日, 原村中央公民館, 講師

大工原 豊「群馬地域の爪形文段階の石器群について」北橋縄文学講座, 2021年7月24日, 渋川市北橋公民館, 講師

大工原 豊「縄文時代の群馬県と周辺地域の文化と社会」たかさき再発見～古代の高崎を探る～, 2021年9月24日, 高崎市中央公民館, 講師

大工原 豊「ここまでわかった旧石器・縄文時代」高崎商科大学地域連携センター公開講座, 2021年11月13日・27日・12月4日, 高崎商科大学, 講師

大工原 豊「黒曜石のやじり作り」耳飾り館JOMONワークショップ(縄文人の生活についての講義と黒曜石の石鏃作りのワークショップ), 2021年11月14日・21日, 榛東村耳飾り館, 講師

大工原 豊「黒曜石の利用と交易」講座名: 縄文時代をひらく, 2022年3月5日, 朝日カルチャーセンター横浜教室, 講師

大工原 豊「縄文時代の石器と石材の流通について」子ども向け考古学講座, 2022年3月20日, 武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館, 講師

藤山龍造「はじめて土器を手にした人たち」, 明治大学博物館友の会「日本考古学2021」, 2021年9月18日, オンライン, 講師

平井義敏「東海地方西部の石材環境と神津島産黒曜石製両面体石器群」第3回信州黒曜石フォーラム, 2021年7月24日, オンライン開催, 口頭発表

田中良・神取龍生・平井義敏ほか「先史時代人の行動復元—川向東貝津遺跡の接合作業から分かったこと—」令和3年度考古学セミナーあいちの考古学2021, 2021年12月11日・12日, 名古屋市博物館, ポスターセッション

池谷信之「文化財の保存活用と地域活動」『富士市文化財保存活用計画ワークショップ』2021年5月15日, 富士市ロゼシアター, 講師

池谷信之「旧石器・縄文時代の人と海」『第66回明治大学博物館公開講座 先史・古代の海洋民を考える』2021年6月4日, ライブ配信, 講師

池谷信之「市原市から出土した土器の胎土分析, 黒曜石の産地分析」『市原市指定史跡「祇園原貝塚」講演&シンポジウム—最新科学が解明する縄文時代—』2021年9月25日, ライブ配信, 講師

池谷信之「3万年前の航海」から星の糞遺跡へ—丸木舟による長距離航海を考える—『令和3年度御前崎市文化財講座』2021年11月13日, 御前崎市白羽地区センター, 講師

池谷信之「縄文土器と動物型土製品の胎土分析からみた縄文社会」『令和3年度加曾利貝塚博物館特別講座』千葉市生涯学習センター, 講師

池谷信之「3万年前の航海と長泉町追平遺跡」『令和3年度長泉町図書館講座』2022年1月19日, コミュニティながいずみホール, 講師

池谷信之「黒曜石の流通と豊橋」『とよはしシンポジウム「豊橋の縄文時代の魅力を探る」』2022年1月29日, 豊橋市公会堂, 講師

池谷信之「黒曜石研究が明らかにするハンター達の旅」『地底の森ミュージアム令和3年度考古学講座—遺跡を読み解く科学—』2022年3月12日, 仙台市地底の森ミュージアム, 講師

栗島義明「井の頭池に集う人々 —旧石器から縄文へ—」

- 武蔵野ふるさと館, 2021年8月21日, 講師
- 栗島義明「勾玉って何?」水子貝塚資料館醍回ジュニア考古学講座, 2021年10月16日, 講師
- 栗島義明「縄文人が装う意味」八戸市是川縄文館, 2021年11月6日, 講師
- 水沢教子「博物館が守った古代匠の技と心—木製品の保存とともに20年—」長野市立長野高校「ながのろじー」6月3日, 講師
- 水沢教子「全盛期の縄文土器—水煙文土器の成立と褶曲文土器—」『長野県シニア大学佐久学部 郷土の歴史と文化講座』9月24日, 『長野県シニア大学長野学部』10月20日, 10月26日
- 水沢教子「縄文文化からみた長野県—土器と土器胎土から—」『信州大学環境マインド実践基礎論 オンライン講座』10月6日
- 水沢教子「全盛期の縄文土器をよむ—ふるさとの縄文時代, 概観—」『軽井沢町歴史民俗資料館文化講座』10月23日
- 水沢教子「博物館が守った古代匠の技と心」『湯～ばれあ歴史講座』10月29日
- 水沢教子・鶴田典昭・柴田洋孝・白沢勝彦「こども体験講座 土器の胎土を偏光顕微鏡でのぞこう」『長野県立歴史館令和3年度秋季企画展関連』10月30日
- 水沢教子「褶曲文の技と水煙文土器の誕生」『長野県立歴史館令和3年度秋季企画展関連講座』11月6日
- 中村由克「北上産と糸魚川産透閃石岩(蛇紋岩)の特徴と識別」『第2回物流・交流を考える会』2021年5月8日(オンライン開催), 発表
- 中村由克 シンポジウム「黒曜石の顕微鏡観察, 晶子形態にもとづく原産地推定の可能性」『黒曜石研究の新動向』2021年11月28日(オンライン開催), 発表
- 能城修一「三内丸山遺跡に始まる東北北部から道南におけるヒバ資源利用」さんまる縄文学講座, 2021年10月16日, 三内丸山遺跡センター縄文シアター, 講師
- 能城修一「先史時代のイチイガシ林とイチイガシ利用」森林総合研究所関西支所公開講演会『森林(もり)の今昔物語』, 2021年10月22日, 龍谷大学響都ホール校友会館, 基調講演
- 能城修一「下宅部遺跡の出土木材からみた縄文時代の森林資源の管理と利用」下宅部遺跡シンポジウム, 2021年12月4日, 東村山市中央公民館大ホール, 講師
- 佐々木由香「科学の視点で考古学—土器のくぼみ(圧痕)から植物を調べる」2021年2月13日, 多摩六都科学館, 講師
- 佐々木由香「土器の再調査「圧痕」」『綾瀬市 考古学オンライン講演会』, 2021年3月21日, オンライン, 講演
- 佐々木由香「縄文時代から続く北の編み組み」『講演会 縄文ムラの原風景目指せ世界遺産! 岩手県御所野遺跡』2021年5月30日, 横浜市歴史博物館, 講演
- 佐々木由香「科学の視点で考古学—土器のくぼみ(圧痕)から植物を調べる—」2021年7月11日, 多摩六都科学館, 講師
- 佐々木由香「取掛西貝塚からみた縄文時代前半期の植物利用」『取掛西貝塚を考える—約1万年前の縄文ワールド第4弾—』2021年8月14日, 講師
- 佐々木由香「縄文トークイベント」『縄文の食文化—佐賀の自然と縄文人の生業—』2021年10月10日, 佐賀市立図書館, 講師
- 佐々木由香 オンライン文化財講演会「国史跡下布田遺跡の低地部から得られた新発見」2021年11月20日, 講師
- 佐々木由香「下宅部遺跡で利用された植物資源—編組製品を中心に」『「東京都下宅部遺跡出土品」重要文化財指定記念シンポジウム 縄文時代の植物利用』2021年12月4日, 東村山市中央公民館ホール, 講師
- 島田和高「黒曜石が明らかにする人類史」, 『明治大学リバティアカデミー 明治大学140周年記念講座 明治の伝統を考古学の未来に活かす①』, 2021年10月9日, オンライン開催, 講師
- 須藤隆司「信州黒曜石原産地の細石刃狩猟民行動—男女倉遺跡群の黒曜石原産地推定をめぐって—」第2回信州黒曜石フォーラム例会, 2021年4月24日, オンライン, 講師
- 須藤隆司「香坂山遺跡出土石器の特徴」第1回香坂山遺跡研究集会, 2021年6月26日, 佐久平交流センター, 講師
- 須藤隆司「香坂山遺跡に日本最古の石器づくりを学ぶ」

市民ふれあい学級, 2021年12月13日, 佐久市東公民館,
講師

諏訪問 順「いにしへの小田原～発掘で明らかにされた
原始・古代～」小田原ガイド協会養成講座, 2021年4
月14日, おだわら市民交流センター UMECO, 講師

諏訪問 順「ヒトが住み始めた頃のかながわ」神奈川大
学 オンライン講座, 2021年7月17日

諏訪問 順「近世の小田原城と史跡整備」小田原ガイド
協会養成講座, 2020年7月21日, おだわら市民交流セ
ンター UMECO, 講師

諏訪問 順「神奈川の名城 小田原城の魅力を徹底追
及！」横須賀市民大学, 2021年5月27日, 横須賀市生
涯学習センター, 講師

諏訪問 順「北条氏が築城した難攻不滅の名城・小田原
城の歴史と見どころ」2021年10月10日オンライン講演
「全国お城物語」NPO 法人 江戸城天守を再建する会,
講師

諏訪問 順「「城から探る小田原合戦「土の城」小田
原城と「石の城」石垣山城」2021年12月18日, お城
EXPO2021特選プログラム, パシフィコ横浜, 講師

諏訪問 順「小田原北条氏と小田原城～戦国時代, 伊勢
原を含む相模の様相～」2022年1月8日, 伊勢原郷土
研究会歴史講演会, 伊勢原市中央公民館, 講師

谷畑美帆「金鈴の輝きにロマンを求めて」木更津市生涯
学習フェスティバル2021記念講演会, 木更津市生涯学
習課, 2021年11月7日, 木更津市市民会館, 講師

堤 隆「佐久の考古遺産を語る」佐久考古学会, 2021年
10月24日, 講師

堤 隆「土器の登場と縄文時代のはじまり」十日町市
博物館, 2021年8月28日, 講師

矢島國雄「月見野遺跡の発見と調査」(第1回, 2021年
10月9日), 「月見野遺跡と今日の旧石器時代研究」(第
2回, 2021年10月16日), 大和市健康都市大学『地元
探求—月見野遺跡を知る』大和市生涯学習センター

(4) 2021年度採択中の科学研究費

石川日出志(代表): 基盤 B (21H00600) 「壘印・ガラス・
鉄器からみた西暦1～3世紀日本列島・東アジアの広
域交流の重層性」2021-2023年度.

池谷信之(代表), 中村由克・堤 隆(分担): 基盤 B
(21H00599) 「蛍光 X 線分析装置を中心とした黒曜石
原産地推定法の改良・体系化とその可変的適用」2021-
2024年度.

能城修一(代表), 佐々木由香(分担): 基盤 B (21H00614)
「縄文時代の森林資源の管理と利用に含まれる多様な
植物の解明」2021-2024年度.

谷畑美帆(代表): 基盤 C (21K00959) 「墓と被葬者か
ら考察する中世社会」2021-2023年度.

堤 隆(代表): 基盤 C (21K00960) 「浅間山南麓の火
山災害考古学序論」2021-2025年度.

佐々木由香(代表), 能城修一(分担): 基盤 B 「土器敷
物圧痕の素材植物と編組技法から見た縄文時代の技術
知の解明」2021-2024年度.

佐々木由香(代表), 能城修一(分担): 学術変革領域
A (20H05811) 「土器に残る動植物痕跡の形態学的研
究」(「土器を掘る: 22世紀型考古資料学の構築と社会
実装をめざした技術開発型研究」(代表者: 小畑弘己
/ 熊本大学)の研究計画5部門の一つ) 2020-2024年度.

栗島義明・佐々木由香(分担)(代表: 米田 稔): 基盤
A (20H00024) 「初期の縄文土器の機能に関する総合
的研究」2020-2024年度.

能城修一(分担)(代表: 小林公治): 基盤 A (20H00037)
「アジア螺鈿文化交流史の構築—物質文化史の視点か
ら」2020-2024年度.

能城修一(分担)(代表: 吉田邦夫): 基盤 B (20H1344) 「越
後縄文人の食性変化と多雪化の関係を明らかにする研
究」2020-2024年度.

佐々木由香(分担)(代表: 小畑弘己): 学術変革領域
A (20H05809) 「土器を掘る: 22世紀型考古資料学の
構築と社会実装をめざした技術開発型研究: 総括班」
2020-2024年度.

遠藤英子(分担)(代表: 庄田慎矢): 学術変革領域 A
(20H05820) 「植物考古学から探るイネ, 雑穀, ムギ
食文化の交流と変容」2020-2024年度.

島田和高(代表): 基盤 B (19H01345) 「最終氷期にお
ける中部高地の景観変遷と黒曜石資源開発をめぐる人
間—環境相互作用」2019-2022年度.

大工原 豊(代表): 基盤 C (19K01002) 「縄文時代に

おける情報伝達と物資流通システムに関する基礎的研究」2019-2022年度.

会田 進 (代表), 佐々木由香 (分担): 基盤 C (19K01099)
「中部山岳地における縄文大型マメの継続性に関する研究」2019-2021年度.

水沢教子 (代表), 中村由克 (分担): 基盤 C (19K01117)「胎土分析から復元する縄文時代中期の土器づくりシステム」2019-2023年度.

遠藤英子 (代表): 基盤 C (19K01116)「東アジア起源の雑穀 (キビ・アワ) の黒海北側ステップ地帯への拡散の時期と経路」2019-2021年度.

佐々木由香 (分担) (代表: 小畑弘己): 基盤 A (19H00541)
「第三の発掘—人為化石が開拓する未来の考古資料学の構築」2019-2022年度.

中村由克 (代表): 基盤 C (18K01071)「高精度の石材鑑定に基づく後期旧石器時代前半期における人類移動についての研究」2018-2021年度.

能城修一 (分担) (代表: 岩佐光晴): 基盤 B (18H00631)「東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究」2018-2021年度.

中村由克 (分担) (代表: 藤野次史): 基盤 C (18K01066)「旧石器時代における石材獲得戦略の研究—地域石材からの視点を中心として—」2018-2021年度.

池谷信之 (分担) (代表: 高橋龍三郎): 基盤 A (18H03590)
「縄文時代の氏族制社会の成立に関する考古学と集団遺伝学の共同研究」2018-2021年度.

谷畑美帆 (分担) (代表: 山田康弘): 基盤 A (18H03593)「考古学・人類学・文化財科学の学際的研究による縄文社会論の再構築」2018-2021年度.

池谷信之 (分担) (代表: 海部陽介): 基盤 A (18H03596)「ホモ・サピエンス躍進の初源史: 東アジアにおける海洋進出のはじまりを探る総合的研究」2018-2021年度.

堤 隆 (代表): 基盤 C (17K03216)「神子柴系石器群の生成とその性格をめぐる研究」2017-2021年度.

(5) その他

会田 進: 茅野市永明中学校遺跡における弥生時代住居址31棟の炉埋土のフローテーション調査 (炭化コメ, マメなどを検出)

会田 進: 縄文土器付着炭化物の安定同位体分析と炭化物付着深鉢の大型, 小型の機能分析調査, 炭化マメ類及び土器種実圧痕のマメ類・シソ属果実の検出された岡谷市花上寺遺跡と目切り遺跡において実施中. 東京大学・米田穰氏と共同研究.

大工原 豊: 立川市史編さん主任調査委員として, 向郷遺跡出土の黒曜石石核の実測・トレース及び原稿執筆を行う. 2021年10月

大工原 豊: 日本考古学協会選挙制度検討小委員会 副委員長として活動・会議参加

大工原 豊: 日本考古学協会選挙管理委員会 委員長として活動・会議参加. 2021年11月6日・2022年2月12日

大工原 豊: 中根八幡遺跡出土の黒曜石資料分析及び石器実測・トレース. 2022年1~2月

平井義敏: 明治大学黒曜石研究センターニューズレター No.15に「東海西部の石材について—新任の挨拶に代えて—」を寄稿

平井義敏: 東海石器研究 (東海石器研究会刊) 誌上における「齊藤基生先生追悼号」の編集作業を行う. (『東海石器研究—齊藤基生先生追悼号—』11として刊行)

神取龍生・平井義敏ほか: 東海石器研究会の活動として, 愛知県埋蔵文化財調査センターと共同で川向東海津遺跡の石器接合作業を2021年4月から月2~3回実施. 作業の計画・調整・報告を行う. (『東海石器研究』12に中間報告を掲載予定)

長田友也・平井義敏・堀木真美子ほか: 渥美半島における石材環境調査を実施, 2021年5月8日, 10月4日

池谷信之: 箱根畑宿・天城柏峠流紋岩サンプリング, 2021年9月14日

池谷信之: 岡谷市丸山遺跡出土縄文草創期石器群調査, 2021年9月21日

池谷信之: 東京都東久留米市川岸遺跡Ⅸ層出土黒曜石調査, 2021年10月18日

池谷信之・須藤隆司: 蓼科双子池周辺黒曜石原産地踏査, 2021年8月5日

池谷信之・須藤隆司: 男女倉高松沢原産地踏査, 2021年11月21日

池谷信之・中村由克・須藤隆司: 和田東餅屋黒曜石原産

地調査, 2021年10月14日

栗島義明 2021書評「白石浩之著『旧石器時代から縄文時代への転換』『考古学研究』68-2:99

能城修一 2021「ワット・ラーチャプラディットの窓と扉に使われている螺鈿板と彩漆蒔絵板の樹種」『タイ所在日本製漆工品に関する調査研究—ワット・ラーチャプラディットの漆扉』, pp. 93-97. 東京文化財研究所.

能城修一 2021「向方南遺跡E地点から出土した木製品類と自然木の樹種」『東京都杉並区向方南遺跡E地点』, pp. 136-142. 野村不動産・株式会社 CEL.

能城修一 2021「鳥浜貝塚の周辺における植生の変遷と森林資源利用」『鳥浜貝塚発見60周年記念特別展 森と出会った縄文人—人と植物の歴史の始まり—』, pp. 38-44. 福井県立若狭歴史博物館.

小野 昭:<書評>大工原 豊・長田友也・建石 徹(編)『縄文石器提要』考古調査ハンドブック20, ニューサイエンス社, 2020年5月刊, 『日本考古学』52:93-97(2021年5月)

小野 昭:<書評>ルイス・R. ビンフォード著『過去を探求する—考古資料解読の方法と実践—』(植木武・小杉康・鶴田典昭・内山敏行・高倉純・小杉生奈子共訳) 雄山閣, 2021年6月刊 (Binford, L. R. In Pursuit of the Past: Decoding the archaeological record. 1983.), 『考古学研究』68/3:114-116(2021年12月)

小野 昭:<翻訳>ミヒャエル M. リント, ゲオルク ロート著『ドイツ最大のフリント採掘場跡の発掘』(Michael M. Rind und Georg Roth (2007) Ausgrabungen in Deutschlands größtem Feuersteinbergwerk. *Archäologie in Deutschland*. Nr.4, SS.8-13.) 『資源環境と人類』12:133-141(2022年3月)

佐々木由香:NHK「英雄たちの選択」取材

谷畑美帆 2021「書評 人間の本質にせまる科学」『季刊考古学』156:121, 雄山閣

谷畑美帆・三谷智広・米田恭子 2021「八幡西遺跡出土人骨について」『八幡西遺跡:第一次・第二次発掘調査報告書』, pp.253-254(山形県埋蔵文化財センター)

V 研究出張

2021年

4月10日:能城修一・佐々木由香「横浜市磯博物館(御所野遺跡特別展見学)」

4月13日:絹川一徳「神奈川県箱根町畑宿地域踏査」

4月19~20日:能城修一・佐々木由香「石川県八日市遺跡(樹種同定試料サンプリング)」

4月26~28日:能城修一・佐々木由香「鹿児島県前田遺跡(編組製品調査・同定試料サンプリング)」

4月28日:栗島義明「埼玉県立歴史と民俗の博物館(民俗映像調査)」

5月1日:中村由克「佐久市フィールド(石材調査)」

5月7日:栗島義明「埼玉県富士見市水子貝塚資料館(資料調査)」

5月7日・9月13日・12月6日:平井義敏「愛知県田原市・豊橋市(渥美半島石材調査)」

6月1日:能城修一「森林総合研究所(木材標本調査)」

6月4日:栗島義明「埼玉県埋蔵文化財調査事業団(文献調査)」

6月7日:絹川一徳「立正大学博物館(箱根町朝日遺跡出土資料調査)」

6月10日:平井義敏「明治大学黒耀石研究センター(分析装置の講習会)」

6月10日:水沢教子「明治大学黒耀石研究センター(池谷信之特任教授と蛍光X線分析の打ち合わせ)」

6月16日:栗島義明「群馬県歴史博物館(腰巻遺跡資料調査)」

6月16日~17日:中村由克「中野市立博物館(土器胎土分析)」

6月17日, 7月6日~9日, 8月2日~6日, 9月28日~10月2日:鳥田和高「諏訪市博物館(資料調査)」

6月18日:鳥田和高「尖石縄文考古館(資料調査)」

6月22日:栗島義明「新潟県埋蔵文化財センター(木製容器他調査)」

6月26日:中村由克「佐久平交流センター(香坂山遺跡研究集会参加)」

7月3~4日:能城修一・佐々木由香「岩手県御所野遺跡(ニワトコ酒製作実験)」

- 7月13日：栗島義明「埼玉県小川町教育委員会（前期土器資料調査）」
- 7月14～15日：中村由克「新潟医療福祉大学，新潟県立歴史博物館（研究打ち合わせ）」
- 7月15日：栗島義明「山梨県富士吉田市他（石斧他資料調査）」
- 7月19～20日：中村由克「明治大学黒耀石研究センター（黒耀石サンプリング）」
- 7月21日：絹川一徳「神奈川県箱根町畑宿・芦之湯地域踏査」
- 7月21日：栗島義明「練馬区教育委員会（石材資料調査）」
- 7月23日：能城修一「大成エンジニアリング八王子資料整理室（虎ノ門麻布地区資料分析のための打合せ）」
- 7月25日：大工原 豊「上田市国分寺資料館（深町遺跡資料調査）」同行者：研究協力者（芹澤清八・宮坂 清・村松佳幸・角田祥子・田中弘江）
- 7月29～30日：能城修一・佐々木由香「富山県南太閤山遺跡（樹種同定試料仕分け・種実同定）」
- 7月30日：栗島義明「埼玉県立自然史博物館他（橋立岩陰資料調査）」
- 8月～9月：堤 隆「佐久市香坂山遺跡発掘調査」
- 8月1日：能城修一・佐々木由香「福島県鷲内遺跡（報告書取りまとめのための打ち合わせ）」
- 8月2～6日：能城修一・佐々木由香「東北大学川渡フィールドセンター（現生植物標本採集）」
- 8月3日：中村由克「富山県埋蔵文化財センター（石器石材調査）」
- 8月3日・12月10日：平井義敏「静岡県袋井市（山田原遺跡の石材調査）」
- 8月10～11日：大工原 豊「上田市国分寺資料館（深町遺跡資料借用）・盛岡市（株）ラング（PEAKIT 作成委託）」
- 8月15～16日：能城修一・佐々木由香「徳島県南蔵本遺跡（漆塗糸玉の調査とサンプリング）」
- 8月18～19日：中村由克「明治大学黒耀石研究センター（黒耀石サンプリング）」
- 8月20日：栗島義明「埼玉県富士見市水子貝塚資料館（土器製作）」
- 8月27日：能城修一・佐々木由香「山形県北町遺跡（発掘調査現場見学）」
- 8月30日～9月1日：能城修一・佐々木由香「鹿児島県前田遺跡（樹種同定試料サンプリング）」
- 9月2日：中村由克「富山県上市町弓の里歴史文化館（石器石材調査）」
- 9月3日：能城修一「千葉県千葉市南生実（ボーリング調査立ち会い）」
- 9月4日：栗島義明「埼玉県富士見市水子貝塚資料館（土器製作）」
- 9月8日：能城修一「東京都高輪築堤（発掘調査現場見学）」
- 9月10日：能城修一「東京国立博物館（能面調査）」
- 9月11日：谷畑美帆「縄文研究に関する打合せ」（オンライン）山田康弘氏主催
- 9月12日：中村由克「佐久市香坂山遺跡（石材調査）」
- 9月15～17日：中村由克「明治大学黒耀石研究センター（黒耀石顕微鏡観察）」
- 9月17日：栗島義明「埼玉県富士見市水子貝塚資料館（土器焼成）」
- 9月21～22日：中村由克「岡谷市教育委員会，明治大学黒耀石研究センター（石器石材調査）」
- 9月22日：栗島義明「埼玉県越生町教育委員会（夫婦岩資料調査）」
- 9月24～25日：能城修一・佐々木由香「岩手県御所野遺跡（エゴマ・マタタビ・ミズキ調査）」
- 9月26日：中村由克「みどり市岩宿博物館（石器石材調査）」
- 9月28～29日：能城修一・佐々木由香「富山県南太閤山遺跡（樹種同定試料サンプリング・種実同定）」
- 9月30日：平井義敏「愛知県埋蔵文化財調査センター（牛牧遺跡の石材調査）」
- 10月2～3日：能城修一・佐々木由香「新潟県津南町なじょもん周辺（クワ調査）」
- 10月6日：中村由克「明治大学黒耀石研究センター猿楽町研究室（研究器材準備）」
- 10月8日：平井義敏「愛知県豊田市（今朝平遺跡の石材調査）」
- 10月8日：栗島義明「福島県喜多方市教育委員会（博毛遺跡資料調査）」

- 10月10日：栗島義明「東京都東村山市ふるさと歴史館（下宅部遺跡資料調査）」
- 10月13日：栗島義明「栃木県大谷寺宝物館（資料調査）」
- 10月13日～14日：中村由克「明治大学黒曜石研究センター（黒曜石顕微鏡観察）」
- 10月15日：栗島義明「山梨県早川町郷土資料館（民具他資料調査）」
- 10月21～22日：会田 進「大仙市内上ノ山Ⅱ遺跡出土のドングリ圧痕土器調査」大仙市北庁舎
- 10月23日：能城修一・佐々木由香「岩手県御所野遺跡（エゴマ収穫調査）」
- 10月26日：栗島義明「宮城県東北大学（角二山遺跡資料調査）」
- 10月26日～30日：中村由克「秋田県埋蔵文化財センター（石器石材調査）」
- 10月27日～10月30日：島田和高「長野県，入笠山大阿原湿原（ボーリング調査）」
- 10月30日：島田和高「明治大学黒曜石研究センター（機材調査）」
- 11月2日：池谷信之「静岡県下田市朝日小学校（田京山遺跡出土神津島産黒曜石原石調査）」
- 11月2日：栗島義明「東京都府中市教育委員会（武蔵台遺跡資料調査）」
- 11月3日：池谷信之「東京都江戸東京博物館（特別展「縄文2021」見学）」
- 11月5日：平井義敏「岐阜県下呂市（湯ヶ峰下呂石原産地の発掘見学および岩体調査）」
- 11月6～7日：池谷信之「群馬県みどり市岩宿博物館（岩宿博物館企画展見学，岩宿フォーラム聴講）」
- 11月6～8日：能城修一・佐々木由香「鹿児島県前田遺跡周辺（イチイガン調査・編組製品素材採取）」
- 11月9～11日：中村由克「明治大学黒曜石研究センター（黒曜石顕微鏡観察）」
- 11月11日：栗島義明「神奈川県大和市教育委員会（相模野149遺跡資料調査）」
- 11月12日：栗島義明「東京都東久留米市（川岸遺跡資料調査）」
- 11月12日：能城修一・佐々木由香「江戸東京博物館（「縄文2021—東京に生きた縄文人—」展見学）」
- 11月14日：能城修一・佐々木由香「栃木県立博物館（「木と木の実の考古学」展見学）」
- 11月16日：栗島義明「新潟県長岡市立博物館他（資料調査）」
- 11月18日～22日：中村由克「広島県立歴史民俗資料館（石器石材調査）」
- 11月19日：平井義敏「静岡県川根本町（スタブラ遺跡の石材調査）」
- 11月20日：絹川一徳「神奈川県箱根町畑宿・芦之湯地域踏査」
- 11月21～23日：能城修一・佐々木由香「福井県若狭歴史博物館（鳥浜貝塚資料調査・特別展見学）」
- 11月30日：会田 進・橋詰 潤・山田武文「木曾町内遺跡出土草創期土器の種実圧痕調査」開田高原考古博物館，新潟県立博物館・橋詰 潤氏と共同研究
- 11月30日：栗島義明「長野県立科町・上田市教育委員会（資料調査）」
- 12月1日：会田 進・山田武文・橋詰 潤「葛原沢4遺跡出土草創期，早期土器の種実圧痕調査」沼津市埋蔵文化財センター，新潟県立博物館橋詰 潤氏と共同研究
- 12月10日：平井義敏「静岡県袋井市（原野谷川の石材調査）」
- 12月11日：絹川一徳「神奈川県湯河原町鍛冶屋・尾崎山地域踏査」
- 12月11日：栗島義明「長野県松本市立考古館（エリ穴遺跡資料調査）」
- 12月12日：水沢教子「中野市立博物館（千田遺跡出土土器の借用）」
- 12月12～13日：能城修一・佐々木由香「岩手県御所野遺跡（キハダ収穫調査・箕製作者聞き取り調査）」
- 12月17日：会田 進・山田武文・橋詰 潤「寿能遺跡下層出土土器の種実圧痕調査」埼玉県埋蔵文化財収蔵施設，新潟県立博物館橋詰 潤氏と共同研究
- 12月17日：水沢教子「株式会社ニチカ（千田遺跡出土土器の薄片作成依頼）」
- 12月20日：平井義敏「静岡県磐田市（敷地川および勾坂中遺跡の石材調査）」
- 12月22日：栗島義明「宮城県東北歴史博物館他（資料調査）」

12月24日：栗島義明「神奈川県大和市教育委員会（相模野149遺跡資料調査）」

12月24日：能城修一「大成エンジニアリング八王子資料整理室（虎ノ門麻布地区樹種同定資料サンプリング）」

12月29日：栗島義明「栃木県大谷寺宝物館（資料調査）」

2022年

1月5～8日：能城修一「南蛮文化館・茨木市文化財資料館・岐阜市歴史博物館（南蛮漆器調査）」

1月7日：栗島義明「埼玉県寄居町他（石材調査）」

1月14日：栗島義明「埼玉県東秩父村（石材調査）」

1月15～16日：能城修一・佐々木由香「青森県是川縄文館（是川中居遺跡出土資料調査）」

1月23日：栗島義明「栃木県栃木市星野遺跡資料館（資料調査）」

1月23～25日：能城修一・佐々木由香「佐賀県東名遺跡（編組製品資料調査・サンプリング）」

1月26～28日：能城修一「大成エンジニアリング八王子資料整理室（虎ノ門麻布地区樹種同定資料サンプリング）」

2月7～9日：能城修一・佐々木由香「福島県前田遺跡（樹種同定資料サンプリング）」

2月9～10日：島田和高「佐賀県，多久石器遺跡群調査委員会（遺跡視察，委員会出席）」

2月21日：能城修一「東京大学総合図書館（南蛮漆器調査）」